

P1-006

子育て中の保護者の食に関する実態調査

仁藤 喜久子、菅原 詩緒理

仙台白百合女子大学 人間学部

【目的】

幼児期の食習慣の形成には保護者が大きく影響されると考えられている。そこで保育園や幼稚園に通う園児の保護者の食事や栄養摂取状況及び意識の実態調査を実施した。

【方法】

対象は仙台市内の保育園や幼稚園に通う園児の保護者370名である。データ収集は、園から自記式質問紙を手渡し、記入後、園に直接持参か郵送で回収した。質問内容は、食関連QOL、食知識、食態度他であった。分析は、SPSSを用いて単純集計を実施した。

【結果】

回答は262名から得られた。回答者は女性が95.0%であった。食関連のQOLに関しては、「食生活満足度」では、まあまあしていると回答した者が69.8%、「食事の楽しさ」では、まあまあしていると回答した者が66.0%、「食事のおいしさ」では、まあまあしていると回答した者が60.3%、とてもしているのは31.7%であった。食知識に関しては、「主食という言葉の知識」では、あると回答した者が98.1%、「主菜という言葉の知識」では、あると回答した者が92.4%、「副菜という言葉の知識」では、あると回答した者が93.1%であった。食態度に関しては、「家族・仲間と一緒に食事をすることにに対する態度」では、とても大切なことであるべく一緒に食べたいと回答した者が59.5%、大切なことだが、忙しければそろわなくても仕方ないのは35.9%であった。意思・意欲に関しては、「栄養・食事に関する学習に対する態度」では、まあまあしたいと回答した者が48.1%、とてもしたいが26.7%であった。食スキルでは、「食事の問題点の判断」では、まあまあできるが46.2%、少しできるが35.5%であった。「食事の問題点の解決方法を考える」まあまあできるが40.1%、少しできるが38.2%であった。「外食や食品購入時に食品表示を見て選ぶ」では、まあまあできるが38.9%、少しできるが26.0%、「保護者・食事担当者に体に良い食事を作ると言える」では、まあまあ言えるが45.4%、少し言えるが18.3%であった。

【考察】

食関連のQOLは、約7割の者が満足していた。食知識に関しては、9割以上の者が主食・主菜・副菜などの言葉は理解していると考えられた。食態度に関しては、家族揃って食事をする事の重要性は理解しているもの環境に諦めを感じていると考えられた。意思・意欲に関しては、半数以上が学習したいと考えていると思われた。食スキルに関しては、問題点の判断や解決方法を考えることの難しさが伺えた。

P1-007

1歳児とその保護者の歯科口腔保健に関する調査

齊藤 香恵子、波多野 宏美、山崎 てるみ、梅津 糸由子、白瀬 敏臣、内川 喜盛

日本歯科大学附属病院 小児歯科

【目的】

本研究は、口腔清掃を開始する保護者への適切な指導と支援方法を検討することを目的に、1歳児の保護者に歯科口腔保健活動に関する調査を行った。

なお、本研究は日本歯科大学生命歯学部倫理委員会の承認(NDU-T2017-42)を受けて行った。

【対象と方法】

対象は、育児用品会社のモニターであり、本研究への参加の承諾が得られた月齢12～23か月幼児の保護者50名とし、アンケートへの記入方式にて調査を行った。

【結果】

「口腔ケアで一番初めに使用したもの」は、ガーゼが54.0%、ゴムブラシが30.0%、歯磨き用ウェットティッシュが30.0%、歯ブラシが20.0%だった。「歯ブラシの使用開始時期」は、上下の前歯が萌出してからが52.0%、下の前歯が萌出してからが40.0%だった。

「保護者が子どもの口腔ケアで一番知りたいこと」は歯磨きの方法で74.0%であり、次にうがいの方法と開始時期が60.0%、歯磨剤の選び方が50.0%だった。

1歳児に「フッ化物製剤を使用している」のは56.0%であり、使用していないが36.0%、フッ化物製剤かわからないが8.0%であった。

「保護者が子どもの歯みがき剤に求めること」は、むし歯予防効果が最も多く(95.9%)、安全性(79.6%)、楽しんで使える(32.7%)であった。

「歯磨きで困っていること」は、磨けているか心配が73.5%、口を開けないが55.1%、逃げるが46.9%、泣くが44.9%と多かった。

「子どものかかりつけ」がある人は36.7%、「母親のかかりつけ」がある人は90.0%だった。また、「保健所や歯科で定期的にフッ素塗布している」のは20.4%であった。

【考察】

本研究では、1歳児の保護者を対象に子どもの口腔清掃の開始状況を中心に調査を行った。子どもの初めて使用した口腔清掃具や、歯ブラシの使用開始時期に多様性がみられた。また、1歳児の子どもの歯磨き方法、うがいの方法、歯磨剤の選び方について知りたい保護者が多く、口腔清掃の開始にあたり正確な知識が伝わっていないことが推察された。歯磨剤やフッ化物の使用は半数程であったが、その使用目的も多様であり、フッ化物の正しい安全な使用方法についての知識があるものも多いとはいえなかった。

以上から、小児歯科専門医だけではなく、地域のかかりつけ医においても乳児期からの歯科口腔保健に関する正しい情報の提供や指導をより積極的に行っていく必要があると考えた。